

第8回小牧市東部まちづくり審議会 議事録

1 開催日時

令和5年3月20日（月）15時00分から17時00分まで

2 開催場所

小牧市役所 東庁舎5階 大会議室

3 出席委員（名簿順）

増田 昇（会長）	大阪府立大学名誉教授
大塚 俊幸（職務代理）	中部大学教授
和田 貴充	空き家活用株式会社代表取締役 CEO（オンライン参加）
稲垣 武磨	尾張中央農業協同組合
蛭原 義裕	一般社団法人小牧青年会議所
秦野 利基	こまき市民活動ネットワーク
鈴木 美穂	小牧市小中学校 PTA 連絡協議会桃ヶ丘小学校母親代表
落合 勝之	陶小学校区地域協議会
深堀 修	篠岡学区地域協議会
中川 豊	光ヶ丘小学校区地域協議会
小柳 松夫	桃ヶ丘小学校区地域協議会
村上 富士男	大城小学校区地域協議会
原 正行	公募委員
藤村 歩	公募委員
三木 孝行	公募委員
渡邊 比呂子	公募委員

4 欠席委員

古池 嘉和	名古屋学院大学教授
横山 幸司	滋賀大学教授
田中 秀治	社会福祉法人小牧市社会福祉協議会
坪井 和巳	小牧商工会議所

5 出席オブザーバー

愛知県県営住宅管理室
愛知県交通対策課
一般財団法人桃花台センター

6 欠席オブザーバー

独立行政法人都市再生機構

7 事務局

鵜飼 達市	都市政策部長
堀場 武	都市政策部次長
平野 淳也	都市政策部東部まちづくり推進室長
加藤 宗礼	都市政策部東部まちづくり推進室 推進係長
横井 久志	都市政策部東部まちづくり推進室 専門員
林 亮佑	都市政策部東部まちづくり推進室 主査

7 傍聴人数 1名

8 会議内容

1 開会

あいさつ

2 議事

- (1) 東部振興構想の推進における東部まちづくり審議会の進め方について
- (2) 令和4年度の取組状況について
- (3) アクションプラン（案）について
- (4) その他

3 閉会

■議事録

【事務局】

それでは、時間になりましたので、はじめさせていただきます。

本日は、お忙しい中ご出席賜り誠にありがとうございます。

ただいまより、第8回小牧市東部まちづくり審議会を開催させていただきます。

はじめに、事前に配付しております資料の確認をお願いします。次第の下段に記載しましたように、資料の1から資料6までありますが、ご確認いただきまして、不足等ございましたら、お申し出ください。よろしいでしょうか。

それでは、次第に沿って進めさせていただきます。

まず始めに、増田会長よりご挨拶いただきたいと思います。よろしく願いいたします。

【増田会長】

こんにちは。

桜も開花宣言がされて、とても暖かい日々が続いています。本来ならマスクの着用についても自由ということになっているんですが、まだ皆さん方、私自身も含めて、どこかで思い切って外す時期が来るだろうと思いながら、まだまだ外すことができずにいます。

今日は、特に構想策定後、いろいろな活動が進んでおりますので、その情報共有と進捗管理をどう進めていったらいいかというような辺りの意見交換をしたいと思いますので、よろしくお願い致します。

【事務局】

ありがとうございました。

ここで、ご報告申し上げます。本日の出席委員数はオンライン参加の委員を含めまして 16 名でございます。したがって、小牧市東部まちづくり審議会条例第 6 条第 2 項の規定により、本会議は成立いたしております。

それでは、以降につきましては、小牧市東部まちづくり審議会条例第 5 条第 2 項に基づき、会長が会議を総理することとなっておりますので、増田会長にお願いしたいと思います。

それでは会長、よろしくお願いいたします。

【増田会長】

それでは、だいたい午後 5 時ぐらいを目途に進めてまいります。議題の予定としましては、その他も含めて 4 点ほど挙げております。まず、議題 1 へ進めてまいりたいと思います。

議題の（1）東部振興構想の推進における東部まちづくり審議会の進め方について、事務局からご説明いただければと思います。よろしくお願いいたします。

【事務局】

それでは、東部振興構想の推進における東部まちづくり審議会の進め方について、ご説明をさせていただきます。

小牧市東部まちづくり審議会が立ち上がり、ちょうど丸 2 年、また、東部振興構想が令和 4 年 3 月に策定されてからちょうど 1 年が経過しようとしています。この間、委員の皆様には、東部振興構想策定に係る議論、また構想策定後の進め方等につきまして議論いただき、ご意見を伺ってまいりました。今後も、東部振興構想の掲げる将来像の実現に向け、当審議会の担う役割もより重要になってくるものと考えております。

そこで、構想策定から 1 年を迎えようとしているこの段階で、いま一度、当審議会の立ち位置と申しますか、構想の推進をどのように行っていくかという点につきまして、整理の意味で改めて委員の皆様と共有したいと思っております。具体的には、審議会の開催の時期など、年間の流れをご説明させていただきます。

では、お手元の資料 2 をご覧いただきたいと思っております。

資料 2 の図では、P D C A サイクルの中で、審議会の担う役割について表しており、真ん中の部分ですが、審議会は東部地域の状況を把握しながら、今後の展望を見据えた意見・提言をいただく役割を担います。

図の四隅には P D C A サイクルの中で、審議会が行うそれぞれの役割を記載しております。

審議会は、おおむね 2 回の開催を予定しており、図の下にまとめていますが、10 月頃に東部振興構想の参考指標のチェック、これは、前年度の状況を反映した数値が出そろうのに時間を要することから、次に記載のある中間の取組状況の把握と合わせまして、この辺りの時期に開催するものでございます。

次に、3 月頃に年間全体の取組状況を把握し、参考資料を踏まえながら次年度のアクションプランの案をご審議いただくために開催する予定としております。なお、そのほかに必要と考えられる事項につきましては、適宜開催していくことといたします。また、アクションプランにつきましては、今

後3年間の取組をまとめたものとなりますが、移り行く状況を反映させていくため、毎年更新していくものとしておりますので、毎年度、ご審議いただきたいと思っております。

したがいまして、本日の審議会でございますが、この後の議題におきまして、今年度の取組状況を把握いただき、それに対する意見、提言のほか、それらを踏まえまして来年度のアクションプラン案についてご審議いただきたいと思っております。

説明は、以上でございます。

【増田会長】

ありがとうございます。

ただいま、資料に基づきまして、当審議会の進め方について、位置づけと時期も含めてご説明がございました。何か、ご質問とかご意見とかございますでしょうか。

一応、審議会としては、進捗管理をしていくという、あるいは進行を後押しするというような役割があるかと思えますけれども、何かご質問ございますか。開催時期も含めていかがでしょうか。

【小柳委員】

私自身も実際に活動している身でもございます。本日委員としてご参加いただいております JA 尾張中央の稲垣専務に多分にお世話になりながら、今年度は活動してまいりました。これも一定の成果を収めたと同時に反省もしております、次にどうつなげていくかということは今、前向きに検討しておりますので、こういう状況の予定の中で、方向づけの中で、私たちも実践部隊という一面を持って頑張っていきます。その活動が東部振興構想の参考指標にどのように反映されるかチェックしていきたいと思っております。そのチェックにより問題点を把握していく。そんな流れでよいのではないかと思います。

【増田会長】

ありがとうございます。

今日の議題（２）、（３）のところに出てきますけれども、今日はこういう進捗管理をしていく中で、令和4年度を取組状況を情報共有して、次年度のアクションに向けて、どのようなことをやっていったらいいかという意見交換をすると、こんな進め方でいいのではないかとご発言かと思えます。いかがでしょうか。

この振り返りというか、自己評価といいますか、その辺りが非常に大事で、やってきた結果、具体的に次に向けて、どう改善していったらいいのかみたいな意見交換になろうかと思えますけど、いかがでしょうか。それ以外に何かございますでしょうか。

10月には1年間にやった成果指標みたいなものを指標管理でチェックしていく、そういう形が10月にあるということだと思います。

何かリモートで参加されている和田委員からございますか、いかがですか。

【和田委員】

現状がどのように動いているかというのがあって、逆にこういうことをしてほしいとか、現場で何パターンか動いていただいている中で、困っていることとか、何かサポートさせていただけるようなことがあるのであれば、現場の声から動いていくということも必要なのかなというように思っています。

す。審議会から働きかけてというよりも、その相互関係が必要なのかなという気がしています、というような感じでしょうか。

【増田会長】

そうですね。ひょっとしたら、資料2の真ん中には審議会とありますが、意見、提言と同時に推進に対する支援、協力みたいな話も入ってもいいかもしれないですね。3人寄れば文殊の知恵で、地域の困りごとに対して、ここでいろいろな意見交換をして、支援をしていくという、そういう捉え方をするというのでしょうかね。

ほかいかがでしょうか。

ここは、監査するという意味ではなくて、むしろ地域でのアクションの困りごとに対して、知恵を出し合うんだと、このように捉えるというのが素直かもしれないですね。ありがとうございます。

ほかはいかがのでしょうか。特にはよろしいでしょうか。

今ありましたのは、こういう形でひょっとしたら意見・提言だけでなく支援・協力という形もありかもしれないですね。というようなご発言だったかと思います。ありがとうございます。

【増田会長】

それでは、この1年間、昨年度の3月にプランができて、丸1年、令和4年度いろいろな形で、地域で取り組んでいただきました。それについて、ご説明いただくのと同時に、どうしましょう、アクションプランも具体的に挙げて、全体的に説明していただきまして意見交換したほうが前に進むかと思しますので、2、3を一括で説明いただければと思います。よろしくをお願いします。

【事務局】

それでは、議題2の令和4年度の取組状況について、及び議題3のアクションプラン（案）についてご説明をさせていただきます。資料は、3、4、5の3つとなりますので、よろしくお願いいたします。

まず資料3では、令和4年度の取組状況を一覧としてまとめておりますので、こちらの記載の順番に説明をさせていただきたいと思っております。

その次に、資料の4と5には、資料3の各項目について、詳細を記載しておりますので、ご覧いただきながら説明をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

では、お手数ですが資料の3にお戻りいただきまして、資料の3は2枚の資料となっておりますが、まずは、2枚目のA3の横長の資料をご覧いただきたいと思っております。

こちらの資料でございますが、この1年間の動きをフローに示したものでございます。

前回、10月14日に開催いたしました当審議会では、今年度上半期の状況を説明させていただきましたが、この表を見ますと、一番上の段が審議会の動きとなっております。ちょうど10月の第7回開催のところですが、ここから左の部分を中心にお伝えをさせていただきました。ただいまからは、前回審議会から時間も経過しておりますので、振り返りの点を含めまして、大きなトピックについて今年度の動きとして説明をさせていただきます。

それでは資料3のうち、1枚目のA4版のほうをご覧いただきたいと思っております。

今年度の取組状況の一覧となっておりますが、上から順にお話をさせていただきます。

まず、東部振興構想の周知についてです。

前回、審議会でもご発言がありましたが、様々な機会を通して構想の周知を図っていく必要があり、今年度につきましては、講演会2回による周知、それから事業所訪問による周知、市ホームページ等での発信による周知を行ってまいりました。

ここで資料4をご覧いただきたいと思います。

こちらには、周知活動の一つ、講演会の様子について記載しております。昨年6月の開催分につきましては、既に前回審議会でも報告しておりますので、本年1月22日開催の講演会、「桃花台を考える講演会～みんなで考えよう桃花台の未来のカタチ～」についてお伝えさせていただきます。

チラシにもございますが、副題といたしまして、「東部振興構想の実現に向けて」としたこちらの講演会は、市民活動団体であります桃花台を考える会と市で、協働提案事業の一つとして開催をさせていただきました。当日は、149名の方にご参加いただき、東部地域に隣接する高蔵寺ニュータウンのまちづくりに深く携わっておられます中部大学の服部 敦教授にご講演をいただきました。

また、第2部といたしまして、市東部まちづくり推進室から東部振興構想の展開というテーマで、東部振興構想のポイントや東部振興構想に基づく東部まちづくりプラットフォームの開設、地域の皆さんなどがご参加いただき進められておりますトライアル活動などについて、ご説明をさせていただきました。

続きまして、資料4の裏面をご覧いただきたいと思います。

こちらでは、事業所訪問の状況を記載しております。東部地域のまちづくりを進めていく上で、企業、事業者との連携は欠かせないことから、後ほど取り上げます東部地域トライアル活動実施報告会・意見交流会の参加案内を兼ねまして、東部振興構想の周知、東部まちづくりプラットフォームへの参加の案内を行うための訪問を実施しました。

訪問先は、資料の地図にありますように、東部地域にある2つの工業団地、東部工業団地と大草壇之上工業団地を中心に回り、計26事業所に訪問をさせていただきました。忙しい業務の最中ということもありまして、時間を取って対応いただけるところは少なかったですが、まず、感じたことといたしまして、まちづくりということに対しての関心の低さであり、当然ながら「東部振興構想について初めて知った」という反応がほとんどで、構想やプラットフォームの周知を引き続き行っていく必要性を痛感しました。

また、お話の中で、「工業団地内では事業者間のコミュニティというものは無く、あまり近隣の事業所についても知らない」といった声を聞いたり、困りごとといたしまして、「地域の認知度が低く、募集しても従業員がなかなか集まらない」という声もありました。

一方で、ある企業の工場長さんからは、「地域のために貢献することで、地域が活性化すれば従業員も集まるのではないかとあって、できることはやっていきたいと思う」というお声もいただくことができました。

時間が無く、地域の小売店などはあまり回れておりませんが、ある和菓子屋さんを訪れた際には、思いがけず「面白いことを始めたなと思って、LINEのプラットフォームに入った」ということもお聞きしたところでございます。

今後も機会を見つけまして、地域を回ることの大切さを感じておりますので、引き続き事業所訪問を実施していきたいと考えております。

では、一旦資料3にお戻りいただいて、先ほどの続きとなりますが、Ⅱといたしまして、東部まちづくりプラットフォームの展開についてでございます。

まず、昨年6月5日に、東部まちづくりプラットフォームを開設するとともに、同日から東部地

域でつながり、やってみようプロジェクトをスタートしました。このプロジェクトでは、ワークショップ3回を通じまして、東部地域に関心のある方々が出合い、つながり、実際のまちづくり活動へチャレンジしていくことを体験していただき、ワークショップの後に東部地域トライアル活動といたしまして、こどもマルシェ、あおぞら市場 i n 緑道、しのおかの桃を使った商品開発プロジェクト、それから、小牧のぶどうを使ったクリスマスリースづくりワークショップ、動画を活用したイメージアップ大作戦、小牧市東部地産地消プラットフォームの開設という6つの活動が展開されました。

こうして展開されたトライアル活動について、振り返り、次につなげていくため、また、活動について知っていただき、まちづくりへの参加を広げていくことを目的といたしまして、2月12日、東部地域トライアル活動実施報告会・意見交流会を開催いたしました。このトライアル活動及び報告会の様子につきましては、この後説明をさせていただきます。

続きまして、資料3の最後となりますが、LINEOPENチャットの活用についてでございます。

前回審議会でもご報告いたしました。東部まちづくりプラットフォームにおけるつながる場の一つとして、時間や場所を問わずコミュニケーションが図れるツールとして広く普及しているLINEのオープンチャットという機能を導入しております。この機能を活用して、プラットフォーム内での情報発信、具体的には市のホームページにおいて、東部地域の今を伝えようと開設しております、東部まちづくりニュースの更新情報を発信したり、先ほどのトライアル活動を行う各グループ内の打合せなどにも使われております。

次に、資料5をご覧くださいと思います。

先ほどお話ししました東部地域トライアル活動と、その報告を行ったトライアル活動実施報告会・意見交流会の様子をこちらにまとめておりますので、順番に説明をさせていただきます。

実施報告会、意見交流会につきましては、去る2月12日、東部市民センター講堂で開催をさせていただきました。

資料を順番にご覧いただくと、真ん中に集合写真がございます。少し小さくて見にくいかもしれませんが、よく見ますと最前列のセンター右側に、おなじみの顔が映っていると思いますが、当日は、審議会の増田会長にもお越しいただき、各トライアル活動に対する講評や激励などをいただきました。

また、集合写真の後方にパネルが見えますが、こちらには東部振興構想の概要版を展示した上で、会のガイダンスでも触れ、構想の周知・啓発にも努めました。

なお、ここには記載がありませんが、会場にはトライアル活動に参加されました方23名、それ以外で申し込まれた方22名にご来場いただきました。

また、実施報告会の様子については、事前申込制ではありますが、リアルタイムでZOOMによる配信を行いました。

続きまして、資料の下段をご覧ください。

こちらは、実施報告会で報告されました6つのトライアル活動につき、まとめたものであります。順番にご紹介をさせていただきます。

まず、一番左ですが、こどもマルシェでございます。

こどもマルシェは、子どもが活躍する機会をつくること、親同士の交流や、親への癒しの機会を提供することを目的に、ワークショップで結成されましたこどもマルシェ実行委員会によって、12月4日に大城児童館で開催されました。

当日は、子どもたちが自分で持ち寄った思い出の品に価格を設定し、販売員として実際に販売する

こどもバザールをはじめ、22 のブースでにぎわい、来場者につきましては、500 人を超えておりました。来場者数、出店者数ともに目標を達成し、また開催してほしいという声をいただきました。

ここで、動画をご覧いただきたいと思います。この後の、各活動につきましても、広報やケーブルテレビなどで紹介されました動画がありますので、生の状況を感じ取っていただけるよう、それぞれ 2 分程度になりますが、説明の後に流したいと思います。

では、最初にこどもマルシェの紹介動画でございます。

(動画を放映)

【事務局】

続きまして、資料の右隣、あおぞら市場 i n 緑道、農産物地域内循環プロジェクトでございます。

この活動は、ワークショップに参加いただきました桃ヶ丘小学校区地域協議会のメンバーを中心に、農家と地域住民との交流の創造、地産地消の促進、買物支援を目的として、農家の野菜を直接販売するあおぞら市場を 11 月 27 日に桃ヶ丘小学校正門前の緑道で開催し、7 件の農家に出店していただきました。当日は、文字どおり青空に恵まれて、400 人以上が訪れる盛況ぶりとなり、用意したほとんどの野菜が 2 時間ほどで品切れになるほどございました。

住民からは、「地元で採れた野菜が手軽に購入できてうれしい」というお声や、農家からは「地域の人に直接販売できるのは魅力」という声がございました。

では、こちらのあおぞら市場の様子をご覧いただきたいと思います。

(動画の放映)

【事務局】

次は、しのおかの桃を使った商品開発プロジェクトでございます。

ワークショップに集まりました「しのおか商品開発チーム」によって、地域の特産物であります、しのおかの桃の規格外品を使用した商品開発が進められました。

当初は、桃を使ったレトルトカレーを検討しておりましたが、桃の風味がカレーに負けてしまうとか、桃がアレルギーであることなど、複数の問題が浮上いたしまして頓挫してしまいました。

そこで、地元のマスターズカフェ協力の下、桃スープのレシピを公開することとし、作り方の動画を発信しました。また、先ほどご紹介いたしましたあおぞら市場で試食会というか、試飲会も実施したところ、すごくおいしいというお声や、自分でも作ってみたいという声を多数いただきました。

それでは、桃スープの作り方について、ご覧いただきたいと思います。

(動画の放映)

【事務局】

続きまして、「東部地域の特産物ぶどうを広く PR しよう」です。

この活動は、ワークショップの参加者が、ぶどう農家からの話を聞くことができたことから始まりました。そこから、小牧のブドウが東部地域では知られているものの、市内でも他地域ではほとんど知られていないこと、また、ぶどうづくりの繁忙期に人手が足りず、苦慮していることといった課題のほか、消費者に採りたてのおいしいぶどうを味わってもらいたいと、市場にはほとんど流通せず、

直販売をメインにしていることなど、ぶどうづくりにかける農家の思いを知ることができました。

そこで、小牧のぶどうを東部地域以外の人にも知ってもらおうと、ぶどうのつるを使ったクリスマスリースづくりのイベントが企画されました。ぶどう農家の協力も得られまして、小牧の中心エリアにありますワクティブ小牧で、12月11日に開催しました。

このイベントには、11組の親子が参加し、ぶどうのクイズやリースづくりを通じまして、小牧のぶどうのファンになってもらうことができました。この活動を行っていく中で、地元のぶどう農家と連携できたことは、大きな成果だったと思います。

では、ここでクリスマスリースづくりの状況を動画でご覧いただきたいと思います。

(動画の放映)

【事務局】

次に、動画を活用した東部地域イメージアップ大作戦です。

この活動では、ワークショップ発の「東部地域イメージアッププロジェクト」の発案で、ドローンによる空撮という新しい切り口で東部地域の魅力を発信しようと考え、市の広報と連携しまして、小牧ワイナリー編、四季の森編、ふれあいの森・兒の森編、桃花台編の4つの動画を作成し、市公式YouTubeチャンネルで公開しております。

また、動画の拡散を狙い、SNSを活用した指先ボランティアの協力依頼を展開しました。多くの市民の方にご参加いただこうと啓発チラシを作成し、公共施設やイベントなどでの設置のほか、小牧駅前で配布活動も行いました。

プロジェクトを通し、地域の多くの人を巻き込む重要性を感じたことから、今後は大学生など若い世代との連携などを検討していきたいと考えております。

では、作成しました魅力発信動画をご覧いただきたいと思います。

(動画の放映)

【事務局】

最後は、活動の6つ目、地産地消プラットフォームの設立です。

ワークショップに参加し、先ほどご紹介しました、しのおかの桃を使った商品開発プロジェクト、こちらに参加いただいた方が、ぜひやってみたいと思い立ち、別チームを組んで、地域の特産物レシピを地域で共有する地産地消プラットフォーム、こちらはオンラインでの設立となっております。現在の参加人数、この資料の作成時点となりますが、13名の方で、小牧市東部産の食材を使ったレシピやメニュー、それから商品を紹介するとともに、参加者同士の交流も可能となっております。

また、地元の食材を使った調理と試食を楽しめるオフラインイベントも開催しており、2月5日には、東部市民センターで小牧の郷土料理、ひきずり鍋を作るイベントも開催されております。

それでは、こちらの活動に関しまして開設されました地産地消プラットフォームのサイトをご覧いただきたいと思います。

(サイトを閲覧)

【事務局】

以上、6つの活動の報告会の後には、報告を聞かれた方々から各グループに宛てましたファンレターを囲んで、意見交流会を開催いたしました。

各グループの意見交流会の成果を共有した後、資料の右上になりますが、増田会長から、「来年度に向けて継続していくことが非常に大切であり、正当な収益を上げて、次に向けて再投資するという経済の循環についても考えていただきたい」ですとか、「農の歳時を考えて1年を通じて活動ができるようにすることや、デザイン・動画の編集などにプロフェッショナルな手を加えることなど、改善留意いただきたい。それから、行政には信頼性を担保する役割を継続してほしい」との総評をいただきました。

なお、資料の裏面に参加者に書いていただきましたファンレターを掲載しておりますので、小さくて一つずつ文字が見えないかと思いますが、雰囲気だけでも感じ取っていただければと思います。

続きまして、議題3、アクションプラン案について説明をさせていただきます。

それでは資料6の小冊子になっているものでございますが、アクションプランと書かれている資料、こちらのまず6ページをご覧くださいと思います。

こちらは、東部振興構想にも位置付けておりますが、アクションプランは直近3か年の具体的な取組をまとめたもので、毎年更新していくものとしておりますので、来年度版の案についてご意見いただければと思っております。

内容自体は、継続しながら改訂を加えというものであり、毎年大きく変わっていくものではございませんが、実施主体も様々でございますので、主に東部まちづくり推進室が大きく関わるリーディングプロジェクトについて説明をさせていただきます。

それでは、資料の13ページと14ページをご覧くださいと思います。

ここにありますリーディングプロジェクト1と2につきましては、今年度のリーディングプロジェクトにも掲げておりますものでございますが、記載の仕方といたしまして、誰が実施するのかというところをつけ加えさせていただきました。こちらの2つのリーディングプロジェクトは、具体的にはワークショップを通じたつながりの場の創出と、まずはやってみようプロジェクトの展開であり、東部まちづくり推進室が中心になって進めてまいります。

続きまして、15ページから18ページにかけてですが、ここにある4つのリーディングプロジェクト、こどもマルシェ、あおぞら市場、イメージアップ大作戦、地産地消プラットフォームにつきましては、今年度のトライアル活動のうち、継続の意向があったものについて取り上げております。

これらの6つにつきましては、来年度のリーディングプロジェクトとして、位置づけようと考えています。

ページをめくっていただき、19ページをお願いいたします。

このページ以降で、各リーディングプロジェクトのポイントとなる部分をご説明させていただきます。

まず、今ご覧いただいております19ページ、20ページでございます。

リーディングプロジェクト1、人と人がつながるプロジェクトでございますが、こちらは今年度の内容から特に変更はなく、引き続き人と人がつながる場としてワークショップを開催していきます。

次に21、22ページをご覧ください。

リーディングプロジェクト2、まずはやってみようプロジェクトですが、こちら基本的には今年

度に引き続き、先ほどの人と人がつながるプロジェクトで開催するワークショップを皮切りに、実際のまちづくりをやるトライアル活動を展開していくものとなります。

21 ページの中間あたりに記載しております内容でございますが、このプロジェクトに合わせて、活動を支援するトライアル活動支援制度を今年度創設しております。この支援制度については、前回、10月の審議会の中でも活動の継続が大切で、支援についても自立を目指してもらおう中で、3年程度のスパンで見守ることが必要かもしれないというお声をいただきました。

実際に、我々市職員もグループに入って、一緒に活動に関わりましたが、活動を立ち上げることで当初は、精一杯という状況でございましたので、それを踏まえまして現在、初年度に限っている支援期間を延ばすことを検討しております。具体的には、21 ページの中間にあります認定支援、公共施設の減免利用などの支援ですが、こちらも3年目まで延長、その下の補助金支援につきましては、補助金額を段階的に減らしつつ、自立への方策を検討いただくよう2年目も10万円まで補助が可能とするようにする予定でございます。

市の支援につきましては、東部振興構想や当審議会でも議論のあるように、自立を目指しつつ、どの程度、どのように行ったらよいかという点など、こちら側も迷いながら制度設計しているところでございますが、市側にもできることと、できないことという制約もございますので、必ずそのとおりになるということではございませんが、そのあたりの知見やご意見も委員の皆様方から頂戴できればと考えております。

続きまして、23、24 ページをお願いいたします。

リーディングプロジェクトの3つ目は、今年度トライアル活動として始まったこどもマルシェとなります。こちらは、今年度の活動をベースにして、23 ページの中段にあります。次の目標といたしまして、東部地域の様々な場所でこどもマルシェが開かれることを期待し、経験によって得られたノウハウを各地域協議会へ伝える伝道師の役割を担うことを目指しております。

それでは次に、25、26 ページをご覧ください。

リーディングプロジェクト4、あおぞら市場 in 緑道です。こちらは、今年の活動をさらに発展させていきたいという意向であり、農協や農家とのつながりを深め、開催回数を増やしたり、地域の家庭菜園で採れたものを出店できたり、野菜以外も扱ったりするといったことをしていくということでございます。

続きまして、27、28 ページです。

こちらは、リーディングプロジェクトの5といたしまして、動画を活用した東部地域イメージアップ大作戦を掲げております。

今年度は、ドローンによる空撮という新たな切り口で、動画撮影を中心に活動を続けてまいりましたが、こちら東部地域の魅力の発信の一つとしつつ、新たな切り口の活動といたしまして、若い世代を巻き込み、拡散を狙いつつ、動画自体のレベルアップを図るため、放送部などに所属する大学生との連携や、地元の中学生の目線を生かした動画作成などを始めていきたいとしております。

最後になりますが、29、30 ページをお願いいたします。

6つ目のリーディングプロジェクトといたしまして、小牧市東部の特産品、地産地消プラットフォームでございます。

この活動では、食をキーといたしまして、地域の交流を促し、地産地消を目指そうと、フェイスブックのグループ機能を活用し、今年の1月にサイトを立ち上げましたが、参加者を増やしていきたいということから、サイトの周知や店舗の発掘などを行いつつ、オンライン上で東部産の素材を使っ

たメニューや商品などの投稿を促していくこととしております。

また、オフラインでの交流をするため、地産地消クッキングなどのイベントを開いていきたいとしております。

以上、長い説明になりましたが、支援制度に関するご意見や、その他、取組に対しまして、幅広いご意見をいただければと思います。

よろしくお願いいたします。

【増田会長】

ありがとうございました。

本日の大きなテーマとなります取組状況の理解とそれを踏まえて、令和5年度のアクションプランについてご説明いただきました。

どこからでも結構ですけれども、ご意見をいただければと思いますが、特にまずは、今年度、令和4年度の取組状況に関して、動画などでもよく分かったと思いますが、何かご質問があればいかがでしょうか。中川委員、どうぞ。

【中川委員】

動画に関しての質問ですけれども、確かに言葉で見ると写真で見ると、画面で見たほうがより身近に感じる、これは今後も取り入れていただきたいですが、ただ今回の広報された結果、どれぐらいの視聴があったのかというのはつかめるのでしょうか。

【増田会長】

いかがでしょうか、今日のこの動画は、YouTubeで公表しているのでしょうか。

【事務局】

今、ご覧いただいた動画に関しては、基本的にYouTubeにあがっておりますので、手持ちで詳しい視聴回数を持っていない状況ですが、YouTubeでは視聴回数が表示されていますので、そちらで確認できます。

【中川委員】

ありがとうございます。

今度は、お願い事項でございますが、39ページに掲載されております太良まめなしの里整備事業、実はこれ地元でございまして、合わせてお願いしたいところですが、今後の小牧市の良いところを紹介のところで、このまめなしの里を取り入れていただければというお願いでございます。

といいますのは、ここには、自生しているマメナシというのが存在しております。これは植樹ではなく、愛知県で保護をされております天然記念物にも指定されております。そういったことで非常に今、それをベースに太良上池・下池の農業地域一体の風致公園、手をできるだけ加えずに自然を残した風致公園の整備が進んでおります。見晴台とか、観察小屋だとか、最低限度の施設整備を進めてきておりますので、ぜひ動画で取り入れていただいて、運用していただければというお願いでございます。

【増田会長】

ありがとうございます。

このメンバーでの最後の審議会ということで、今回のプロジェクトの5番ですかね、この辺りでもしも取り上げるならば、そんなことかと思えますね。ありがとうございます。

ほかは、いかがでしょうか。深堀委員。

【深堀委員】

動画のほうですけれども、現状の紹介ということで非常にいいかなと思います。東部地域では今、小牧のスマートインターチェンジの建設が進んでいます。来年度中とか、いろいろ問題はあるようですけれども、東部地域に新しく展開されるよというものをひとつ動画などに加えていただいて、皆の喚起を促す、そういうのがほしいなと思います。

【増田会長】

ありがとうございます。

これは、構想をつくっているときから、インターチェンジの開設に関してある一定の地域へのインパクトが発生するのではないかという話がありましたが、何か、これについては事務局何か回答ございますか。特にご提言という形でよろしいですか。

ありがとうございます。

ほかは、いかがでしょうか。原委員どうぞ。

【原委員】

今、お話の 39、40 ページで、4つ並んでいるんですけれども、上の3点、これは、なるほどなど思って中身的にも理解できますが、一番下の都市ブランド戦略という、言葉は格好いいんですけども、具体的な中身と構想について、担当部署ではもっているのでしょうか。要するに、中身的には何も書かれていないんですよね。

【増田会長】

いかがでしょう。具体的にこれは、都市ブランド戦略に基づき、アクションプランを策定するという、この辺りについての進捗状況はいかがでしょう。

【事務局】

都市ブランド戦略については、市の他部署で進めておりますが、ブランド戦略ということで、こちらのほうはいろいろな手法で広告ですとか、情報発信など含めて、段取りを進めているというところでございます。

【増田会長】

よろしいでしょうか。

関連して、マスコミとかで、ここの東部の振興構想みたいなものは、どれぐらい取り上げられたかなども、チェックいただくとありがたいと思いますけどね。地元テレビなのか、地元紙なのか、年間どれぐらい取り上げられているのかみたいなものの回数が増えてくると、顔が見えてきていいかなと

思いますけど。

【原委員】

一つの目安になると思いますよね。

【増田会長】

そうですね。ありがとうございます。

ほかは、いかがでしょうか。蛭原委員よろしくお願いします。

【蛭原委員】

令和4年度の取組状況と、来年度のアクションプランの説明があったので、ちょっと教えていただきたいのが、1月22日に行われた講演会の参加者149名の年齢の内訳とかは、出ていたら教えていただきたいと思います。

【増田会長】

いかがでしょうか。

【事務局】

年齢までは把握できていないです。

【蛭原委員】

分かりました。質問の意図としては、今回、これをやるに当たって、狙ったターゲットに向けて狙った人が来たのかというのが気になって、今後またブラッシュアップしてこういうことをしていくとなったときに、それぞれターゲットを決めて活動をある程度されていると思うので、少しその辺が知れたらよかったなというのがまず1点と、あと、今回こちらのアクションプランという、これもまた後々、発行はされるというものでよかったですかね。

【増田会長】

いかがでしょうか。

【事務局】

こちらのアクションプランにつきましては、毎年3カ年、次期も3カ年の計画ということで作成し、発行していくことになります。

【蛭原委員】

ありがとうございます。

見ていていくなかで、これはあくまで僕の意見というふうで受け止めていただければと思うんですけど、右上のほうでビジョンの番号と、そのビジョンの中の細かい取組方針の1、2とかという部分が記載されるかと思うんですけど、せっかく9ページ、10ページのところで色分けがされているので、その色に合わせて、もしできれば作っていただいたほうが、見る人にとっては、見やすいので

はないかなと思ったので、意見とさせていただきます。

以上です。

【増田会長】

ありがとうございます。

施策体系とつながってるほうが見やすいだろうと。分かりました。ありがとうございます。

あとは、2回の講演会をされていますけど、そのときは、来られた方にアンケート調査みたいなやつは取られてるんでしょうか、いかがでしょうか。

【事務局】

今回、協働提案事業ですので、実施主体は桃花台を考える会になりますが、実施主体でアンケートを取られていると聞いております。

【増田会長】

そういうのを少し教えていただくと、多分どのくらいの年齢層の方々が参加されたとか、どの地域の方が参加されているとかというのが分かるかと思しますので、もしも考える会から情報提供いただけるのであれば、また次の機会にでも、どんな状況だったかという情報共有をしていただけるとありがたいなと思っておりますね。

【事務局】

分かりました。そちらについても参考にさせていただきます。

【増田会長】

ありがとうございます。

落合委員どうぞ。

【落合委員】

ドローンの話がありましたので、もし見ることができたらいいなということで。

資料の4の裏面に地図がございしますが、一番外れのほうに、JRの研究施設があると思うんですけども、こちらは相当面積が広いです。インターへ入ってくる手前のところから、あの辺は全部開発されて、ものすごい大きい敷地なんですけど、住民にとっては、その中が、全然どうなっているのか分からないということがあります。

それから、東海豪雨のときに、丘陵地のほうね、環境センターの裏側あたり相当傷痕だらけになってますし、四季の道も白山神社への林道もひどくダメージを受けて、通行止めにずっとなっていました。

そういうところですか、ドローンを飛ばせるなら、見てみたいなというところですか。そんな過去の東海豪雨の爪痕が現在どうなっているのかとか、すごく大きな開発がずっと前にあったんだけど、もう記憶から薄れてるところがありますので、そういうところも、市民も見たいなとか、昔、いろいろなことに携わった人が見たいなという箇所は、多分この辺りが広大な地域ですので、あるんじゃないかなということで、ちょっと発言しました。

それと、もう一つは、この山岳地というのが、小牧市の、すばらしい、どこにもない財産だと。例えば桃花台の緑道を歩いているとメジロがいたり、小鳥がいるんですけども、それも、この丘陵地とか愛岐丘陵が入鹿池からありますので、そういうことで里山のほうが守られているということからいくと、今、いろいろこういう事業を進めている中で、この山岳地の魅力だとか、ドローンで空から見るとということなので。例えば、四季の道でも、大分寸断されてましたので、今、通れるかどうか分からないし、白山神社の林道の峠も、入鹿池のところは、今、下りれるところかどうか分かりませんので、そういうところを、せっかくドローンを飛ばすのであれば見てみたいと思います。そういうPRの仕方も1つはあるんじゃないかなと思います。

特にどうという意見ではありませんが、すばらしい、魅力のあるところが、たくさんこの東部地域にはあると思いますのでぜひ、進めていただければと思います。

【増田会長】

ありがとうございます。

たしか、リーディングプロジェクトの5が今回も継続されるということですので、今日出たアイデアですけどね。次回のこのプロジェクトのところに少しご紹介いただいて、皆さん方でシナリオを考えていただくということになるかと思いますが、よろしく願いいたします。ありがとうございました。

村上委員、どうぞ。

【村上委員】

私はイメージアップ大作戦のメンバーで、少しメンバーに加わって活動しました。

これは、まず、とりとめない話ですけど、LINEで我々のグループは情報交換をやっているんですが、途中で話がつながらなくなったりしていくんですね。また、ちょっと欠席したりLINEが見れなかったりすると、もう話の内容が分からなくなって、ついていけなくなっちゃうんですね。

今のグループは、参加している人が年代的にも幅が広くて、LINEだけではコミュニケーションが取りづらい面もあると思うので、定期的集まって、目標に向かって話し合いをするような機会があるグループになればいいなと思っております。

次に、先ほどマメナシも話題に出ましたが、インター付近の丘陵地の奥の方、種鶏所の辺りですかね。ドローンで撮影してほしいということでしたが、ドローンは、とにかく制約が多くて、やってみて初めて分かったことですが、ドローンが飛ばせない状況が結構あるんですね。

特に、ドローンの機材は市役所のものを使用するものですから、かなり計画的にやらないと飛ばせない。我々が手持ドローンを持っていれば、すぐ申請だけすればできるんでしょうけど、それも市役所にやってもらっていますので、なかなかタイムリーにできない状況でした。

来年度、皆さんがどのようにされるのか分かりませんが、活動をスムーズに進めるには、自前のドローンが必要であったり、もう少し申請やお金の手続きが簡単になればなと思っています。

こんど、私が所属している地域協議会と低山のぼろう会という団体との合同で31日に、マメナシの観察会をやるんですが、それをドローンで撮影してほしいと思っていますが、すぐにはできないんじゃないかなと思います。来年度の活動でやってくれると良いと思っています。

そんなことで、このグループで活動してみて、話が途中でつながらなくなったり、誰が何をやっているのか分からなくなる感じもありましたので、その辺は今後変えるべきかなと思っています。

この話がこの場に合う話かどうか分かりませんが、一応、お伝えします。

【増田会長】

ありがとうございます。今後やっていくときの1つの留意事項として、このグループにと。

私もちょっとお聞きしたいんですけど、このリーディングプロジェクト5というのは、今年の継続なので、助成金みたいなやつはないんですかね。先ほどの説明ですと、2年目になるので、今年の上限20万円ではなくて、上限10万円の継続助成みたいな形になるんですか。その辺いかがでしょう。

【事務局】

そうですね。今、会長言われたとおり、1年目は20万円、2年目は10万円にするという形で進めています。

【増田会長】

なるほど。これは2年目に相当するということなんですね。

【事務局】

継続というのは2年目という形になります。

【増田会長】

分かりました。

このプロジェクトは、学生さんに参加してもらったと思うんですけど、何かございますか。

学生の動きはありますか。

【大塚委員】

私のゼミ生が2人、参加していたんですけども、今ちょうど授業が終わって春休み中なので、学生が今どういう状況で、どういうつもりで動いているか把握できていません。学生の継続性の問題点というのは、もう卒業したら終わってしまうところだと思います。

先ほど、ぶどうに関する活動があり、そこには、卒業して社会人になっても知多のほうから通って参加してくれる人もいました。しかし、学生や同じ人が継続してやっていくというのはなかなかできないので、うまく新しい学生、後輩をそこに入れて、そこにバトンタッチして次につなげていくというようにしていかないといけないかなと思っています。

学生を見ていると、結構、LINEとかそういうのにすごく頼ってしまって、目の前に話し相手がいるのにLINEでやり取りをしていますので、そればかりではいけないということを学生に対して話をしていきたいと思っています。

【増田会長】

分かりました。

ぜひとも、後輩に引き継いでいただけるような仕組みができるとありがたいですね。

それと、やはりアフターコロナですので、適切な対面の会議というか、対面の意見交流会も適度に入れながらやっていくというのも、今年からというか、令和5年度から許されるような、通常といい

ますか、行動になろうかと思しますので、そのあたりも各プロジェクトに今日の意見を伝達していただければありがたいなと思いますね。ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

秦野委員、どうぞ。

【秦野委員】

まず、昨年、いろんな事業をやられたということで、たくさんの人の笑顔が見られたというのは、本当に良かったのかなというように思っています。

それで、こうした流れを文化にするためにはどうしたらいいのかと思って。例えば、あおぞら市場 in 緑道みたいなものですね、地元の農家の方々が来て野菜を販売されてと。年に1回とか2回ではなくて、例えば、毎月第何日曜日とか、何かそういった流れは、そんなに難しいことではないんじゃないのかなという気がするので、やはり皆さんに好評なものは回数を多くしてトライをします。それが文化になっていくということは、非常に重要な視点なのかなというような気がしています。

あと、やはりこういったいろんなイベントをやるときに、例えば、机だとか椅子だとか、いろんなものが要るわけですよ、人が集まる場には。例えば、そういったものがちゃんとこういったプロジェクト、もしくは東部で市民活動をやられている方々が簡単に無償で借りられるというような仕組みを1つ持っておいたほうがいいかなと。じゃあ、誰が用意するのだということになれば、やはりそれは行政が、市民としてなかなかそういったものを用意できるお金とかが限られるとすれば、何らかのそういった市民活動、こういった活動をサポートしていくような場所なり組織が要るのだらうなというように感じるんですよ。

この東部まちづくり推進室というのは、東庁舎の2階にあるということで、何で東部の桃花台にこの組織がないのか。僕は実は感じる場所があって、私どもも、こまき市民活動ネットワークのほうでワクティブこまきという市民交流センターのようなものを管理・運営させていただいているのですが、こういったいろんな活動が、情報が入ってきて強力に発信することができるという、そんな仕組みがあれば。先ほど紹介のあった、ドローンの動画の視聴回数を見てみたんですが、あんまり視聴回数って多くないんですね。やはりせっかく撮られたのであれば、多くの方に見ていただけるような情報発信力というのは必要だということで、こういった形の活動を強力に押し出すこと、また、日常的にこういった活動をやっている方がちゃんと普通の日につながれるところ、協力とか情報交換ができる場所というのが必要なんだろうなというように感じました。

あともう一点、例えば、41 ページのヴィジョン3の住まいですね。空家等の対策というように掲げられた。これは継続し定住促進もやっておられるのですが、こういうものというのは、やはりどうしても行政側のサポートでしかなか動かしてこないで、リーディングプロジェクトとはかけ離れたものかもしれないのですが、一応このアクションプランの中にもヴィジョン3ということで入っているわけですので、例えば、リーディングプロジェクトとこういったものの関係性だとか、これをやることによって多少なりともこの参考指標のところには何らかの成果が少しはつながったんだよというところが、すごく欲しい部分なので、こういった審議会のようなものを、こういった報告も受けながら、これはどういうようにつなげていくのというところのアイデア出しだとかもしていかなければいけないのかとか、そのように感じます。

【増田会長】

ありがとうございます。

私のほうからも少し補足で、このヴィジョンというのは、どちらかというと、リーディングプロジェクト以外に、少し中長期的な行動指針やと思うのですが、このヴィジョンに関する中間報告というのか、進捗状況の報告みたいなやつはどのようにお考えになっていますかね。

毎年ではなくても、3年に1回とか、あるいは年に1回なりとか、どんな取組状況かという、そのあたりいかがでしょう。

【事務局】

そちらにつきましては、構想の中で、各ヴィジョンで参考指標をつくっておりますので、毎年数値を調査したうえで、審議会にも報告させていただきたいと思っています。

【増田会長】

分かりました。

秦野委員、多分10月に指標に基づく報告をいただくときに、ヴィジョンについては報告いただくということが確認できたらと思います。

もう一点は、やはりある意味、地域活動を支えようと思うと、施設あるいは資機材ですね。このあたりについて、東部地域に行政がある一定の準備ができたりとか、少なくとも手続論でいくと、複雑な申請ではなくて、極力簡易に申請できるとか、短期間に申請できるとか、そういう取組って非常に重要だと思うんですけども、そのあたりについては事務局、いかがでしょうか。

【事務局】

言われるとおり、簡素な形でということを検討してはいるのですが、なかなかうまくできていない状況です。

【増田会長】

緑道マルシェなんかされたときの出店ブースとか、そのあたりはどうされたんですかね。農家のほうから協力いただいたんでしょうか。

【小柳委員】

緑道で開催したあおぞら市場については、初めてやることですのでいろいろ苦労がありましたけど、当初から、農協の稲垣委員に協力してもらわないととてもできないと思っていましたので、非常に積極的に協力いただいて、出店者もまとめていただけましたし、軽トラ市ということで、机等もたくさん必要というほどではありませんでした。

ただ、全く要らないというわけではなく、今回の会場の近くに桃ヶ丘会館という、私たちが住み始めたときに行政に建ててもらったんですが、そこにも机と椅子もあったということで、今回はそこから持ち出して、必要な量だけ使用できました。

ですから、今、特別あれが欲しい、これが欲しいということはないんです。これからはあるかもしれませぬ。

【増田会長】

そのあたりも極端に言うと、どこにどんな資材があつて、どういう形で申請すれば、それが安価、もしくは無償で借りれるのかという、リストアップ化していただくと、地域の活動の中で、「あっ、ここにアクセスしたら机借りられそうだ」とか、ここにアクセスするとテント借りられそうだとか、そういう情報整理をしていただくと、備品を買って準備する以前の問題として、情報整理・提供していただくというのは有効な方法かと思しますのでよろしくお願ひしたいと思ひます。

あとは、行く行くは、できたら、私のやっているところではデザイン的なタープを作つて、それで若い人たちが集まってもらえるようなことをやっているんですが、そんなおしゃれさんみたいなやつが、こどもマルシェだとか、あるいはあおぞら市場みたいなところにあると、よりもっと活性化していくのかなど。これは少し準備するのにお金がかかるものですから、経済的な循環の中でということも考えていって、おしゃれ感覚みたいなやつがどこかにあると、先ほどおっしゃっていた文化へつながつていくのかなというように思ひます。ありがとうございます。

稲垣委員、どうぞ。

【稲垣委員】

要望というか、お願ひでございますが、39、40 ページですね、地域資源の関係。一番上にこまきゴールドの関係が載っておりますが、こちらのほう、平成 30 年 1 月に申請してとなっておりますが、実はこれ、平成 25 年頃からやらせていただいて、約 10 年かかっています、農水省で登録を受けるというのは非常に困難だったということなのですが、そのことはいいんですが、一番気にしているのは、苗木をよその地域に持っていかれると困るということを思っております。そこで、こまきゴールドの協議会というのをつくっています。

こまきゴールドの協議会というのは、苗木も協議会のメンバーしか渡さない、販売もその農家さんと農協でやると。とりあえずここからスタートしようということですので、この記載で、実施の主体が小牧市、加工事業者とあり、これがどこなのか私も分かりませんが、ちょっと考えられない。あと、市内農家、J A 尾張中央とありますが、これは、J A 尾張中央と、こまきゴールド生産推進協議会ということで進めていますので、そのように記載いただきたいと思ひます。

このこまきゴールドについては黄桃ということで、全国的には、四国と長野で大体黄桃というのはございますが、この黄桃の時期というのが、愛知県では愛知白桃の出る前ぐらい。だから、白鳳が終わった後ぐらいに出るので、大体 7 月の 20 日過ぎぐらいかなという桃種は全国にあるんだけど、尾張中央でやってる、このこまきゴールドというのは、珍しく 6 月 25 日ぐらいに出てくるということで、これは多分全国的にかなりアピールできるので、桃農家さんにとっては、何とかしたいということで 10 年間ずっとやっておりますので、慎重に取り扱っていただきたいということで、よろしくお願ひします。

【増田会長】

今のお話は、知的財産に関わることだと思うんですね。国際的にいいますと、皆さんよく御存じのシャインマスカットが、日本が国際的に登録してなかったものですから持ち出されてしまったというようなことがありますから、この知的財産って非常に大事ですので、今のご提言をご参考いただければと思ひます。ありがとうございます。

ほかはいかががでしょうか。中川委員、どうぞ。

【中川委員】

資料4のところでございますが、工業団地内の事業所を訪問されたという報告でございますけれども、感触としてはどういう感触を企業さんが持っていられるか。もちろん企業さんによっては、1つの考えにもよりますが、地域密着型の企業もあれば、利益中心型の企業もありますが、我々としては、やはり地域と企業というのは密着すべきだなというように思います。

過去の例はありましたが、私ども地域の中にはオムロンさんという企業がございました。そこでは、夏のイベントとしてフェスティバルというものをやります。従業員の方がバンド等をやられて、いろいろなゲームとかしながら、そして、そこに住民も参加させていただくというやり方でやっておりました。また、もう一つ言うならば、サンテックというところがございますけれども、そのサンテックさん、名糖産業さん、同じところで一緒に地域の一斉清掃というものをやっておりました。これもコロナで中断してしまって、今後は継続していくとは思いますが、こういう地域と密着することは非常に私は大切だなと思います。

そこで増田会長にお伺いしたいのですけれども、関西方面におきましても、やはり企業と地域が密着して、こういういい成功例があるよ、成功談があるよということがありましたら、ぜひ参考にさせていただければなと思っております。よろしくお願ひします。

【増田会長】

今の時代、全ての事業所というんですかね、大学も含めて、地域にオンしないと活動が継続しないというのは、これはもう全国的な風潮かと思ひます。したがって、企業なんかも、基本的には、やはりいかに地域にオンするかということは、やはり考えられてきていますので、例を挙げるといふと、多分な企業が地域貢献なり地域の活動をされつつありますし、大学も講演会を開催したりとか、定期的にですね。

だから、そういう意味では、地域にオンするというのは非常に重要ですので、訪問していただくときに、やはりその辺の普及啓発というんですかね、それも含めて企業訪問いただいて、地域にオンすると効果が発揮されますよという話はぜひともしていただければと思ひますけどね。そんなところでよろしいでしょうかね。

【中川委員】

はい。

やはり企業側も地域との密着は必要だなと思ひますね。

【増田会長】

そう思ひます。

【中川委員】

できる範囲内から進めていければなと思ひますね。ありがとうございました。

【増田会長】

ほかはいかがでしょうか。

小柳委員、どうぞ。

【小柳委員】

私どもがあおぞら市場をやらせていただいて、そのときに、やはり企業ということも頭にありましたので訪問し、2社ほど協力をしていただきました。東部まちづくり推進室が26社回ったということは全然知らなかったんですけども、回ってくれて、いろいろ反応があったんじゃないかということだと思うんです。こうして努力いただいているということに、僕は非常に感謝しています。僕も個人的にここへ行ったものですから。

【増田会長】

なるほど。

【小柳委員】

先ほど報告のありました2月12日のトライアル活動実施報告会では、私も発表の場がありました。実は、東部まちづくり推進室の方が企業さんを回ってきていただいたおかげで、あおぞら市場でご協力いただいた企業の担当の方に、その場にもいらしていただきまして。僕が訪問したときには相手は作業着で、違う服装だったものですから、お会いしても、それほど分からずに、マスクもしていますので、余計にわからない状況でした。報告会の会場で、向こうから声をかけていただき、こんなに一生懸命やっているんだねと。また次には何か話してくださいね。そういうお言葉をいただいて、本当にうれしく思って、企業とのつながりの一端ですけれども、ありました。それだけ報告しておきたいと思いました。わざわざ私どもの活動報告にも来ていただいて。これは、やはり行政の人たち、東部まちづくり推進室の人が企業訪問していただいて、呼びかけてくれたから、私も、また会える人ができて、そういうありがたい言葉をいただけたということで、大変成果があったんじゃないかなと、第1歩進めているんじゃないかと思います。

それから、次年度の予定なんですけども、今、いろいろお言葉をいただきました。来年度は、あおぞら市場を2度ぐらいはやらせていただこうかなというように思って、これも農協さんともよく相談はしてやらなきゃいかん。だから、いろいろ勉強しました。

軽トラ7台並んでも、お客さんは入口付近に集まる状況でしたので、私は会場奥のほうへの呼び込みも一生懸命やりました。そういう状況になると思っていなかったもので、ハンドマイクも持っているのですが、当日は持参しなかったこともあり、次はそれも用意しておかないといけないかなという思いがしました。

また、これからは買い物が終わったら、はい、さよならじゃなくて、桃ヶ丘会館というところがありますので、そこの大ホールを使って、懇談してお茶でも飲んでいただけるそんなコーナーもつくろうと思っています。そのときに地域協議会の宣伝をするなり、あるいはサロンの関係のスタッフにも我々の取組を手伝ってもらおうとか、いろいろと横のつながりをつくっていくことを考えています。それから、今回は子どもさんの来場が少なかったもので、若い人にも来ていただけるよう、次回はバトンアートを何とか協力してくれるところが今あるんですよ。だから、そういうのを加味して、子どもたちにも楽しんでいただけるような、あるいは若いお母さんが参加していただけるような方向性は、今、相談をしているんですね。まず一步、次に二歩目を踏み出していくところですので、いろいろ皆さんに教えていただいたことを含めて、さらに成果を上げていきたいと思っています。

【増田会長】

分かりました。

プロジェクト間の共催とか、協力とか、あるいは地域の活動との連携とか共催とかというのが非常に大事になってきて、そういう情報を共有することによって、ある日、一緒に共催しましょうかとか、そういうことにつながっていかうかと思えますので、ぜひそのあたりは大事だと思えますし、先ほどから行政の情報発信の話がありましたけど、例えば、資料5のまちづくり通信、このあたりは、例えば、東部の工業団地とか、篠岡の工業団地とかいうところへ配信はされているんでしょうか。その辺、いかがでしょう。

【事務局】

こちらは市のホームページでも発信しているのですが、そちらの企業に直接ということはやっておりません。

【増田会長】

その辺、ちょっと考えていただいて、郵送して、例えば、紙媒体で送るとお金がかかると思うんですけど、メールで配信できるようなことが考えられれば、26社せつかく回られたときに、ひょっとしたらまちづくり通信、これからメールで配信しましょうかみたいなことを聞いていただいて、配信受けつけますよということの了解をいただければ、情報をそこへ流していくと、協力の意向も高まっていこうかと思うんですね。

だから、例えば、農協であったりとか、青年会議所であったり、商工会議所であったりとか、こういう辺りに、今は、非常に立派なホームページを作っても、見にきてもらわないといけないんですよ。そうではなくて、どちらかというダイレクトメールに近い、押売状態でないと、なかなか情報って伝わらないので、押売できるメールアドレスをどれぐらい担保するかみたいな話がすごく大事で、いろいろな講演会とか、学習会とか、セミナーとかやった後、必ず会場に、これからこのまちづくりについて情報欲しい人はここにメールアドレスを書いてくださいみたいなことをして、情報を送り届ける先を増やしていくような、そういう戦略も非常に重要かと思えますので、イベントするごとに、その情報を配信できるメールアドレスを増やしていくと。個人情報がありますから、詳しい個人情報にならないような形でアドレス管理ができたらと思えますので、その辺も事務局のほうで検討いただければと思います。ありがとうございます。

和田委員、いかがでしょう。大分時間も迫ってきましたけど、何個かあろうかと思えますが。

【和田委員】

ありがとうございます。そちらの会場では、活発なご意見が出ているので、僕、しゃべる機会がなかなと思っていたんですけど。

すばらしいなと思いながらお聞きしておまして、成果がやはり出てるなという、動いているなというのがやはりすばらしいなと思っています。僕もほかの自治体さんとお話をさせていただいたりするんですが、やはり絵にかいた餅になって、結局、まちと市民の人たちと一緒に動いているというのは実はむちゃくちゃ少なくて、今回の取組は、本当に胸をはれるような、モデルケースになるような、何かそういう、リーディングプランが動いて、6個もプロジェクトが動いてやっているというのは、モデルケースになるような、何かそういうふうなぐらいの成果かなと思っています。

そこで、先ほどからも出ておりますが、継続して、これやっていったほうがいいよねというところに関しては、あとは仕組みですね。ぜひ、このように来年は2回と言わず12回もやらせていただけるような、何かそのくらいいいものだなというように思っておりますので。

なかなかやはり大変なので、ここは巻き込んでいって、役所の職員さんも、ほかの地域の方々も巻き込んでいっていただいて、運営を自分たちだけじゃなくて、ほかのメンバーもできるような、何かそういうような仕組みができたらいいなと思いついておりました。

先ほどの企業という話も、役所の方々が回っていただいて、訪問していろいろお話ししていただいているというのは本当に素晴らしいことで、行動力あるなというように思っているんですけども、企業側からすると、何をやってほしいのっていうところ。良いことはしたいんだけど、どうしてほしいかみたいなことというのがやはり分かりにくいと動きにくいというところもあると思いますので、具体的にこうしてほしいというようなことを、このリーディングプロジェクトのこの部分を手伝ってもらえませんかみたいな形をお願いしに行く。一緒にやりましょうということで、企業を巻き込んでいくということができればいいのかなと。

彼らにとって、企業にとってメリットっていうのも、やはり渡してあげないといけないというところで考えますと、地域から雇用ができるというのは、やはり彼らも人材不足というのは絶対あると思いますので、良い人たちを若いときから、青田刈りではないですが、根づいて、将来的に雇用できるような、会社に入りたいと思ってもらえるような、知ってもらえるような企業の活動というのは、やはりその地域に根づいて、子どもの頃から知っていただくっていう取組って非常に重要なんじゃないかなと思いますので、何かそういう企業にとっても雇用につながるという、自分たちがまちにアピールできる機会というのを考えると、先ほどのそのあおぞら市場も一緒に、何か商品出してくれませんかとか、こどもマルショも一緒にやりませんか、職業体験をしませんかみたいな、職業体験の機会をこどもマルシェでつくってくだいせんかとか、何か企業を知っていただけるような、何かそういう機会をコーディネートしてあげればいいんじゃないかなと。巻き込むこともできますし、ひよっとすれば、予算を支援していただけるかもしれませんので、何かそういったところが民間で今度回していく仕組みとなっていくところじゃないかなと思います。

というのと、あと、情報発信のところも皆さんおっしゃっておられましたので、これ、より具体的な情報発信にするかというところは、やはり誰が運用するかって一番問題だと僕は思いますので、KPI設定ですね、毎回その数字のところを決めて、じゃあ、例えば、小牧市のYouTubeのチャンネル登録数見てみたんですけど、二千何百人登録しているので、これ少ないかというのと、まちのYouTubeのチャンネル登録数でいうと多いほうなんです、2,900というのは、大阪市より多いので。ですので、こども頑張っているんだなというのがよく分かるんです。

ただやはりYouTubeというのはチャンネル登録よりも動画再生数のほうがやはり肝なので、この動画再生数を、例えば1万回まわるような施策をどうやっていったらいいのだというようなところに着眼してもらいながら動画制作をしていくと。どんどん発信していくということは重要だと思うんですけども、やはりおもしろいものでないと誰も見ないので、だから、そのあたりをどう制作していくかというのはプロの知見も借りたい、するべきかなと。

動画は、もうサムネイルと編集が命ですので、このあたりは任せるとは任すような予算設定みたいなものもやはりやっていかきゃいけないし、企業にお手伝いいただくということも重要なのかなというところがありました。

あと、地産地消プラットフォームも、さすがにちょっとフォロワーが25人ぐらいしか入っていない

んですね。せっかくやってももったいないですね。ここも Facebook 広告を回すとか、何かそういう、やはり民間の手を使ってやっても、ここに何人入ったら成功なんだという、その設定は何かしたほうがいいんだろうなというように思いました。

あとは、他の委員からも空き家対策どうするんだみたいな、ヴィジョンに入ってるよねという話もありましたが、弊社、空き家活用株式会社といたしまして、空き家の課題を解決しておりますので。端的に言いますと、弊社と一緒にやれば必ず成果が上がるということをちょっとお伝えしておきます。大変失礼しました。

【増田会長】

ある意味で、企業の方が参画できる選択肢を何個か整理して提示いただくというのも1つかと思います。それはお金でもいいし、資材でもいいし、参画機会でもいいしみたいな、何かそういうのを具体的に提示するというのは大事かもしれません。ありがとうございました。

あと、せっかくですので、大塚先生、ちょっと最後にお言葉をいただきたいので。せっかく参加いただいていますので、発言いただいてない方、何か一言でもいいですから、ございますでしょうか、いかがでしょう。藤村委員、いかがですかね。

【藤村委員】

ドローンで撮影していたのにすごく興味を持ったんですけれども、よくクイズ番組でもドローンで撮影した映像の地域はどこだということをやっているの、少し興味を持ったんですが、いつも思うんですが、もう少ししたら、桃の花がとてもきれいに咲く時期だと思うんですけど、通りすがりに撮影をしようと思っても、車なので、撮影できないなと思いながら、残念だなと思っているので、一度上から見た映像を見てみたいなと思いました。

またあと、やはり中学生、先ほども桃陵中学校の生徒会の人たちが映っていたと思うんですけれども、よく考えてみると、地元には高校はないので、要するに小学校、中学校を地元で過ごした方も外に出てしまうと、その世界じゃないですけど、興味は外に向かってしまうということが多いので、やはり中学校でこういう取組に興味を持った方が、さっきの大学生の方は、多分、地元の方ではなくて、大学がこの付近にある方だと思うので、中学校を卒業した方たちが高校生になっても、大学生になっても引き続いてこの活動に興味を持っていくという機会があると、地元をととても大事に思って住み続けたいなと思う機会になっていいんじゃないかなと思いました。その機会があれば、私の息子も高校生なんですけど、参加はさせたいなというように思いました。

【増田会長】

なるほど。分かりました。

戦略会議の際も、中学生からいただいた自由意見って非常に大きな力になったので、やはりその辺を大事にしていくというのは1つの方策だと思います。ありがとうございました。

順番で申し訳ないですけど、三木委員、いかがでしょうかね。

【三木委員】

まず、37 ページの2の農業・商工業にある、農業公園整備事業。これ、ずっと前から農業公園を何とか形にしようということが伝わってくるんですが、もう一息頑張ってください、この東部地域へ

若い人を呼び込む目玉の1つになるような、もうちょっと知恵を出してもらえたらというように思います。

【増田会長】

分かりました。ありがとうございます。

【三木委員】

桃花台を考える会で、今、空き家セミナーというのをやらせてもらっているんですが、4回目で、やっと随分人が集まるようになってきました。ほぼ同じ話をさせていただいているんですが、今回随分人が集まってきていただいたので、今後、もっともっと人が集まってきてくれて、空き家対策、相続対策に拍車がかかるといいなと思っています。

以上です。

【増田会長】

分かりました。ありがとうございます。

農業公園のほうも、ヴィジョンをつくる時も大分議論があったものですから、適宜進捗状況についてこの場に報告をいただいて、魅力化に向けて意見交換ができればと思いますので、何とぞよろしくお願いいたします。

空き家に関しては、先ほど和田さんからもありましたけれども、非常に重要な形の活動になってこようかと思っていますので、ぜひとも継続をして。うまく、空き家が流通するという構造を使っているということをやってみえますので、よろしく願いをいたします。

渡邊委員、いかがでしょう。

【渡邊委員】

それぞれのプロジェクトはとても素晴らしいと思います。私は東部地区の最大の課題は、「高齢化」で「車がなければ生活しにくい不便さが人離れを加速している」と思うので、自動運転やオンデマンドタクシーなども加えて考えてほしいです。またピーチライナーがなくなり通勤通学で春日井駅行きのバスを利用している方が多いのですがバス代が高いので、市から少しでも補助をしてもらえると東部地区で住む人が増えると思います。まずは今暮らしている住民の声口要望を聞き、それを反映していくことで子ども、孫へと世代を超えてずっと愛されるまちづくりとなると思うので、次年度検討していただきたいです。

【増田会長】

分かりました。多分交通弱者というのは、高齢で免許返納をした人と、同時に高校生も免許がないので弱者なんですね。そのあたりの対策というのは非常に重要ではないかと思っていますので、これは少し行政中心に、地域で乗合タクシーとかNPOのタクシーとかもありますけれども、これからだんだんと多分、個別公共交通みたいな話が重要になってこようかと思っていますので、またここでの議論、行政内部でも議論していただければと思います。どうもありがとうございました。

あと最後に鈴木委員、いかがでしょう。

【鈴木委員】

詳しいことというか、難しいことはあまり分かりませんが、私、3人の子どもがいて、私自身も桃花台で育ってきているので、結構桃花台は、私の中ですごく大好きなまちで、結構、私と同年代のほかの友達と、同じように子どもが自分の小学校とか中学校に通っているという方が少ないので、確かに不便で都心とかに出してしまう場合もあると思うんですけど、今までやってきたすごくよかったなというところもあると思います。桃花台まつりとか、あとは小学校でやる地域の運動会。学校の運動会とは別に地域の皆さんとやるっていう運動会がすごくいいなと思っていたので、やはりコロナでなくなってしまっていたので、そういうのをやはり復活させていただけるといいかなと思ったのと、あと、この中にもあったんですけど、特色のある学校づくりというのがあると思うんですけども、やはりPTAだと1年ごとに替わっていくので、どうしても学校の先生たちはずっといらっしゃると思うので、特色のある学校をということだと思ってしまうんですけども、そちらにプラスして、PTAの学校でフェスティバルをやったりとかっていうのは結構、桃花台だと多いので、そういうところに、こういうこどもマルシェとかもそうなんですけど、そういう篠岡の桃とかぶどうとかもリンクしてやっていければ、より活動が広がるのかなと思ったので。

ただ、こういうのってやはりつながりがないとお願いもできないので、どこにお願いしていいのかだったりとか、あとそれから学校内でやっているところに、こういうのが協力できますというのが分かりやすくあったらよりいいなと思ったので、そういうのもやっていただけたらなと思いました。あとやはりコロナで子どもたちがすごく我慢しているというのがあったので、そういうところの取組も増やしていただけたらと思うので、今後もこの活躍が楽しみだなと思うところと、あと、私、小牧LINEを登録しているんですけど、そこに動画とかも配信であったかなと思うんですけど、それを登録している人がどのくらいいるのかとか、あとは、来ても見ないこともあるので、そこにそういう学校の協力とかがあって、自分の子どもがいればやはり見るっていうところがあるので、そういうところの取組も増やしていただけたらいいなと思いました。ありがとうございます。

【増田会長】

ありがとうございます。

これ、意外と地域で学校も行政も、いろんな団体がどこでどんな活動しているかってなかなか情報がないんですよね。そのあたりの情報が一元管理できたら、しかもカレンダーで管理すると、なんか一緒にできるのではないかとか、何か協力できるのではないかみたいな話になって、地域の活動とか状況が共有できるような何か、そういう情報整理なんかもできると連携の糸口が出てくると思うんですね。そのあたり、非常に重要なので、そのあたりも、たまたま金剛ニュータウンの再生というのも、大阪府内でお手伝いしているんですけど、極力マップ化できないか、1年間の行事を。どこでいつ、どんな活動がされているのかをマップ化できないかみたいなことをちょっと取り組み出したんですね。そういうのがあると、ひょっとしたら、同じ時期に同じことをやっているんだったら連携しませんかみたいな糸口になるので、何かそんなのも1つの方法かもしれません。ありがとうございました。

最後になりますけど、大塚先生、いかがでしょうかね。

【大塚委員】

皆さんの今日のお話を伺って思ったことをお話ししたいと思います。あと、このトライアルの活動実施報告会は、私も参加させていただきました。写真も小さく映っているんですけども、誰もお気

づきじゃないと思いますが、その時感じたことを併せてお話しさせていただきます。

この審議会としては、チェックしてプランを見直すということになるので、数値目標というのは重要で、それを基にということはそうだと思いますし、またモチベーションにもなると思います。しかし、報告会で、皆さん、どういう気持ちでトライアル活動をやられていたのかということをお話を伺ってみると、やはりやってよかったというようにおっしゃってみえる。それはなぜやってよかったと思ったかということ、参加してくれた人から、楽しかった、またぜひやってほしいというような話を直接聞いて、その人たちが、よし、じゃあまた続けようという気持ちになる。やはりそういう数字では計り知れないところをきちんと評価していかないといけないなということをおもいました。あと、これからやはり考えていかないといけないのは、今日の話で出ている、いかに続けて広げていくかというところで、仲間の輪を広げるといような観点からすると、その報告会自体が結構そのプロジェクトの担い手の人たちの参加が多く、それ以外の方々にも、今後はたくさん参加してもらい、その報告を聞くことによって、あっ、そういうのだったら自分も一緒にやりたいというように、まさにそのプラットフォームのような場所にしていかないといけないんじゃないかなということをおもい、その報告会を通じて感じました。

まだ1年目ですから、今始まったものをいかに続けていくのかということが中心になりますけれども、今後、さらにその先に新しいプロジェクトを追加でやっていくというようにも考えていかないといけない。そのために、どういう仕組みでその手を挙げて、そのプロジェクトに加えてもらうのか、また新しいプロジェクトを立ち上げていくのかということも考えないといけないのかなというようにおもいました。

細かいところもありますけれども、大きくはそんなところですよ。

【増田会長】

どうもありがとうございました。

では、私からも意見を言わせていただくと、1つは、先ほど和田委員からあったように、まちづくりって、まずはトライアルというか、行動してみるということが非常に大事で、そういう面では、この1年間、きっちり行動できたということが非常に大きな成果だと思います。

その中で、来年度に向けてという話で、今、大塚委員から出た話で言うと、今年もリーディングプロジェクトの1、2は、4月に入って、今年と同じように、人とつながる場プラットフォームというワークショップを継続していただけると。そこから多分、新たにトライアルの活動が、今年生まれた分からは4つですけども、その中からまた何個かトライアルが生み出されてくるだろうという形で、当分このリーディングプロジェクトの1、2はロールモデルとして少し継続していただけると。そこから新しい活動が生み出されてくるという仕組みだと思いますので、その辺は十分評価できるのではないかなと思っています。

その中で、特に1から4が継続で2年目ということになるんですけど、桃プロジェクトとぶどうプロジェクトがとりあえず継続しなかったという話でいくと、今年もこのトライアルの中で、やはり地元の産業とか地元の農業と連携するトライアルが次も早く生み出すような形になると、今日の話の中の継続として非常にいいのかなというのが1点。

もう1点評価できるのが、今年の令和4年度のトライアルを見ていると、やはり行政年度があって、スタートできたのが7月か8月でしたよね。という、丸1年活動できなかったという課題があったのが、お聞きしていると、来年度は4月からスタートできるということで、丸1年やはりしっかりと

使うということも非常に重要で、その点もかなり改善いただいたのではなかろうか。

あとは、先ほど少し、継続ということの中では、やはり一番のサステナビリティというの、地域の中での経済循環みたいな話が非常にサステナビリティに大きく関わりますので、その辺の地域循環経済みたいなやつでどう活動が繋がっていくかと。このあたりが非常に重要かと思えますし、そのあたりを常に意識しながら展開していくと。そうでないと、例えば3年たつと、1年目 20 万円、2年目、10 万円、3年目には、途端に支援金がなくなったときにどう計上するのか。このあたりのことを意識しながら活動をするということが非常に重要だと思えますので、その辺は肝に銘じて、ここでの議論をしながら展開していければなというように思っております。

とりあえずといいますか、まずはやはりスタートして一歩踏み出して、留まらなくて、少しずつスパイラルアップしながら継続していくということが非常に重要かと思えますので、今日出た意見、今日いろんな意味で、リーディングプロジェクトのメンバー、あるいは今後新しく生み出されるトライアルのメンバーに今日の議論をお伝えいただいて展開していただければなというように思います。

今日は本当に有意義なご意見をたくさんいただきまして、どうもありがとうございました。

一応、今日予定しておりました1、2、3が終わりまして、ちょっと時間が押してはいますが、議題(4)のその他に入りたいと思います。お願いします。

【事務局】

ありがとうございました。

当審議会でございますが、現委員の任期が3月22日満了となっております。そのため、今回、現メンバーでの審議会は本日が最後となっております。

委員の皆様には、この2年間、東部地域のまちづくりへのご意見を多分にいただきまして、また、どうか構想のほうを策定し、新たな東部地域のまちづくりをスタートができたこと、本当に感謝申し上げますところでございます。

また、報告となりますが、任期満了に伴いまして、昨年12月15日から本年1月13日の期間で公募委員を募集し、4名の方、ご応募いただきました。選考委員会を経まして、応募をいただきました4名の委員の方につきましては、今回も委員であります原委員と三木委員につきましては、引き続きご参加いただけるというのもありましたので、よろしくお願ひしたいと思います。

次回の審議会からはまた心機一転、新たなメンバーの開催となりますので、よろしくお願ひいたします。

以上です。

【増田会長】

ありがとうございました。

ご参画いただきました皆さん方には、任期の満了と、次の継続も含めてですけれども、感謝申し上げます。ありがとうございます。

それでは、本日予定しておりました議事は、おかげさまで全て終了したかと思えます。やはり具体的に活動が出てくると、これだけ、いろんな意見なり、具体的な話が出てくるということですので、この活力を継続しながら展開していきたいと思えますので、よろしくお願ひしたいと思います。

本日はどうもありがとうございました。

事務局にお戻しいたします。

【事務局】

委員の皆様、本日はお忙しい中、長時間にわたりまして、誠にありがとうございました。

なお、本日の会議の会議録につきましては、作成次第、委員の皆様へ送付し、内容確認していただきたいと思いますのでよろしくお願ひします。

それでは、以上をもちまして、第8回小牧市東部まちづくり審議会を閉会いたします。

皆さん、ありがとうございました。